

凡 例

- 一、戊辰殉難拝霊殿の再建に当たり、本書を発刊し、新たな追憶をもって殉難者の慰霊に供するとともに、会津精神の顕揚を図ろうとするものである。
- 一、本書中の殉難名簿は、昭和十二年十月佐瀬剛氏編輯になる戊辰殉難名簿を参照し、また昭和十三年の「戊辰殉難者弔霊史編輯」計画時の一部訂正の部を生かして作成したものであるが、なお誤謬脱落のあることを免かれないと思うので、ご批評を得れば幸甚とす。
- 一、別記として明治四十四年出版の加藤長四郎編輯「会津藩戦死殉難者人名簿」により東軍関係について追録する。
- 一、名簿の配列を五十音順に改める計画もあったが、都合により後日の機会に託す。
- 一、殉難名簿中、地名・職名等については、編輯上の都合により次のように略語を使用する。

略、本、

江、江戸、杉、越後杉澤、瀧、瀧澤、新、越後新潟、鳥、鳥羽、笹、笹山、伏、伏見、城、城中、石、越後石間口、門、小松關門、木、青木、融、融通寺町、内、大内峠、高、高田、賀、甲賀町、

略、本、

入、二本松領山入、米、米村、若、若松、斗、三斗小屋、福、福良、河、白河、野、野際口、強、強清水、出、越後小出島、面、面川、原、柳原、戸、戸の口原、雨、雨屋、桂、桂林寺町、山、山三郷、

略、本、

郷、郷戸、越、越後、市、野州今市、金、金堀、松、二本松、榎、越後榎木峠、勝、勝軍山、猪、猪苗代、飯、飯盛山、寺、飯寺、大、大野原、堰、一の堰、諏、諏訪社、院、院内、柳、柳橋、

略、本、

桑、桑名藩、宇、野州宇都宮、草、越後草生水、水、越後水原、赤、越後赤谷、キン、金勝寺山、棚、棚倉、氣、氣多宮、寶、越後石間寶昌山、蠶、蠶養口、御、御山、天、天寧寺町、關、關山、材、材木町、長、長命寺、

館、館の原、嚮、嚮導、正、正奇隊、事、軍事方、甲、甲賀格、普、普請方、目、目付席、瀬、瀬戸職、貫、貫義隊、獨、獨禮、隱、隱居組、年、年割、

神、天神口、學、學校日新館病院、軍、軍事奉行、次、會所次番格、差、差圖役、使、使番席、手、兵器手入役、彈、彈藥製造方、二寄、二の寄合、別、別撰組、敢、敢死隊、會、會義隊、

名、西名子屋町、舟、舟渡、器、器械方、純、純義隊、物、物頭席、割、割場浮人、役、武器役、一寄、一の寄合、遊、遊撃隊、衝、衝鋒隊、通、通年割、月、月割、

熊、熊倉、農、農兵、奇、奇勝隊、奏、奏者番席、免、免許、根、兵糧方、幌、幌役、夫、軍夫、風、草風隊、寄、寄合組、結、結義隊、練、新練隊、